

【日野自動車株式会社】 環境への取組

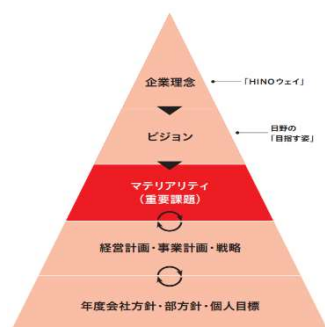
〒191-8660 日野市日野台3-1-1 (☎042-586-5565)

<https://www.hino.co.jp/corp/>

私たち日野グループは、トラックやバスを製造する商用車メーカーとして、「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」という「会社の使命」を掲げています。使命の実現に向けて、すべての基盤になる「HINO ウェイ」を策定するとともに、信頼回復の先にある日野の「目指す姿」を2023年4月に公表しました。さらに、日野の「目指す姿」を実現するにあたり、取り組むべき社会課題(8つのマテリアリティ)を洗い出し、そのなかの一つ「環境負荷低減とカーボンニュートラル社会への実現」に取り組んでいます。

マテリアリティの特定: [8つの取り組むべき社会課題](#)

マテリアリティの位置づけ



マテリアリティ

お客様・社会への 価値提供	環境負荷低減とカーボンニュートラル社会実現への貢献
	商品・サービスとデジタルデータ活用を通じ、人や物が最適に移動できる社会の実現
	事故のない安全な社会の実現
価値提供を 実現するための 経営基盤	企業活動における人権尊重
	「正しい仕事」を支えるガバナンス
	従業員尊重と多様な人材の活躍
	信頼回復に向けたステークホルダーとの誠実な対話
	強靱で持続可能なサプライチェーンの維持

1.環境中長期ビジョンの策定

持続可能な地球環境の実現に貢献するために、長期の環境ビジョン「日野環境チャレンジ 2050」を2017年に策定し、「環境負荷ゼロ」に向けたチャレンジを宣言しました。深刻化する地球温暖化、水不足、資源枯渇、自然破壊など、地球規模のさまざまな環境問題に対して、日野グループが成し遂げるべき6つの環境チャレンジを掲げ、取り組んでいます。



また2030年までの中間目標として「日野環境マイルストーン 2030」を設定し、カーボンニュートラルへの対応を足元の最重要課題として位置付け、実現に向けた取り組みを推進しています。

■環境取り組みプラン(グローバル目標)

日野環境チャレンジ2050	お客様・社会起点のあらゆる方策を追求	日野環境マイルストーン2030
 ライフサイクルCO ₂ ゼロ チャレンジ	脱炭素エネルギーの導入	2013年度比▲25%
 新車CO ₂ ゼロ チャレンジ	技術開発・普及促進 輸送効率化	2013年度比▲40%
 工場CO ₂ ゼロ チャレンジ	製造工程の脱炭素推進	2013年度比▲40%
 水環境インパクト最小化 チャレンジ	使用量低減 排水質管理の徹底	量：地域水リスクを考慮した節水・循環利用 質：水環境保全につながる厳しい自主基準での管理
 廃棄物ゼロ チャレンジ	資源循環の推進	2018年度比▲30%
 生物多様性インパクト最小化 チャレンジ	地域環境に応じた保全活動	自然と共生する工場づくり

長期の環境ビジョン(2050年)/中期の環境目標(2030年): [日野環境戦略](#)

2.カーボンニュートラルに向けた取り組み

「つくる・運ぶ・使う・廃棄する」全てのライフサイクルにおけるCO₂排出量を徹底的に削減するために、3つのチャレンジ(ライフサイクルCO₂ゼロ・新車CO₂ゼロ・工場CO₂ゼロ)を掲げて、推進しています。

1)商用車におけるカーボンニュートラル

商用車のライフサイクルにおいて走行時が最もCO₂の排出が多く、全体の約9割を占めます。当社グループでは、お客様のニーズに寄り添い“多様な”ソリューションを提供する「マルチパスウェイ」の方針で、走行時のCO₂排出低減を目指しています。国や地域によってエネルギー事情はさまざまであり、インフラ整備や充填設備への投資が十分にできない地域もあります。

したがって、電動車(BEV※1 や FCEV※2)が全ての解決策にはなりえず、内燃機関車も重要な選択肢となります。そこで当社グループは、エンジンの燃費向上や、カーボンニュートラル燃料が使用できる内燃機関や水素エンジンの開発にも注力しています。一方、電動車に関しては、電池が主体となるBEVだけではなく、水素をエネルギーとしたFCEV、発電機を備えたPHEVなど、世界各地の法規制やお客様のニーズに対応可能な電動車の提供に取り組んでいます。

※1 BEV(Battery Electric Vehicle):バッテリーに充電して走る電動車

※2 FCEV(Fuel Cell eElectric Vehicle):燃料電池車

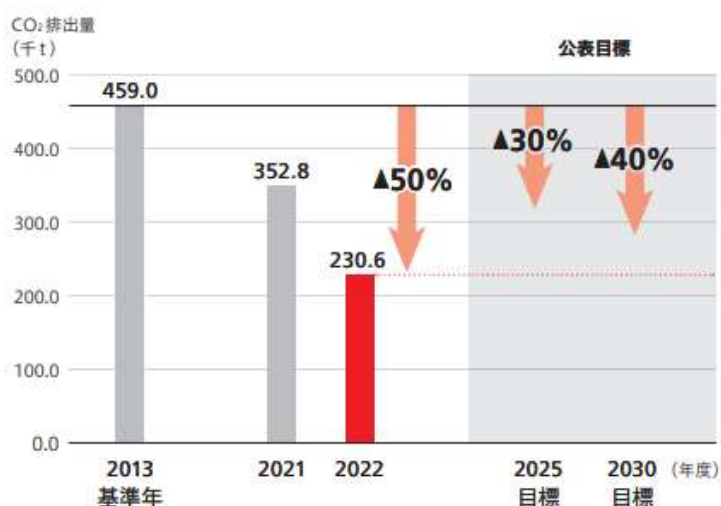
商用車におけるカーボンニュートラル: [日野自動車の取り組み](#)

2)工場CO₂ゼロに向けた取り組み

日野グループは、「革新技术の導入」「日常改善の推進」「再生可能エネルギーの導入」の3つを切り口に、削減活動を強化しています。2022年度の工場CO₂グローバル排出量は、2013年度と比較して、50%削減することができました。削減の方策として、自社国内工場では、37件の環境削減投資を行い、3,230t(概算)のCO₂排出量を削減しています。

さらに再生可能エネルギーの導入として、地域ごとの特性を活かした工場内発電設備設置や再生可能エネルギーを含む電力の調達を行っています。日野工場をはじめ、自社国内工場では、2022年から非化石証書を用いて購入電力が実質再生可能エネルギー100%となっており、排出量の低減に寄与しています。

工場CO₂グローバル排出量



<TCFD 提言に基づく情報開示>

当社グループは、気候変動を含む環境課題の解決を経営の最重要課題の一つに位置付けており、2022 年 12 月に気候関連財務情報開示タスクフォース(以下、TCFD)への賛同を表明しました。TCFD 提言に基づき、気候変動に関するシナリオを分析し、事業活動に与えるリスクと機会を抽出するとともに、取り組みについて開示しています。

詳細:[TCFD 提言に基づく情報開示](#)

3.水環境インパクト最小化に向けた取り組み

貴重な水資源を有効活用するために当社グループは、水使用の削減を図るとともに、各事業所から自然に還す際の排水について、管理と浄化の徹底に努めています。

・使う水は少なく

日野グループは、毎年、水リスクの評価を実施しています。地域の水環境に配慮するとともに、事業への影響度が高い拠点では、取水量の削減活動に注力しています。特に車両組立工場は、水を多量に使用する塗装工程があるため、徹底した削減活動に取り組んでいます。

・還す水はきれいに

水質に関しては、排出基準よりもさらに厳しい評価基準で管理し、河川などの流域レベルでのリスク評価を実施しています。また、定期的に外部機関による測定を行い排水の管理を徹底しています。

4.廃棄物ゼロに向けた取り組み

生産工程から発生する廃棄物は、改善活動による減容化や 3R(Reduce・Reuse・Recycle)によって排出量の削減に取り組んでいます。2022 年度の廃棄物グローバル排出量は、2018 年度排出量と比較して 40%削減しました。

<自動車リサイクルへの取り組み>

2005 年から施行された自動車リサイクル法(使用済自動車の再資源化等に関する法律)を遵守し、多くの関係事業者のご協力のもと、使用済みの車両から発生するシュレッダーダスト(以下 ASR)、エアバッグ類、フロン類の特定 3 品目の引き取りと適正なリサイクル処理を実施しています。2023 年度の ASR リサイクル率は 96%となり、法定基準 70%を達成しております。

また、より解体しやすい車両構造の検討やリサイクル可能材料の採用など、開発段階から環境に配慮した製品づくりを進め、循環型社会の形成と資源の有効活用に継続的に取り組んでいます。

自動車リサイクル法に基づく再資源化等の実績：[2023 年度実績](#)

5.生物多様性インパクト最小化に向けた取り組み

自然と共生する工場づくりとして、地域の特性に応じた「生物多様性の保全」と「学習の機会提供」を 2 本柱にした活動を推進しています。生態系の調査にあたっては地域の有識者や大学の専門家とも連携し、生態系の保全活動に取り組んでいます。

<2023 年の活動紹介>

茨城県環境管理協会監修の下、生態系調査を行っています。
2023 年 7 月には、環境学習会として、古河工場敷地内で「ライトトラップ観察会」を開催し、市内の小学生ら約 50 人が参加しました。クヌギにいるカブトムシやクワガタを捕まえ、有識者や従業員とともに特殊なライトに集まってくるさまざまな昆虫を観察しました。今後も、生き物の誘致が図れる場所として、環境整備を推進していきます。

